

平成 27 年 8 月 3 日  
環 境 局

## 「北九州市生物多様性戦略」の改訂（次期戦略の策定）について

### 1 現戦略の概要

#### (1)位置づけ

○生物多様性基本法第13条において、都道府県及び市町村は生物多様性地域戦略の策定が規定(努力義務)

○北九州市環境基本条例に基づく「北九州市環境基本計画」の部門別計画

#### (2)戦略期間

平成22年度から平成26年度

#### (3)現戦略の概要

##### ○基本理念

都市と自然との共生 ～都市のなかの自然・自然のなかの都市～

##### ○基本目標

5つの基本目標を設定

「多様な自然環境の保全」

「市民が育む自然」

「身近に自然を感じる都市づくり」

「市民と自然とのふれあいの推進」

「自然・生物に関する情報の整備」

##### ○進行管理

市民、NPO、学識経験者、行政等で構成する北九州市自然環境保全ネットワークの会(自然ネット)が戦略の進行管理を実施

### 2 現戦略の成果・課題

#### (1)現戦略の主な成果

##### ○多様な自然環境の保全

・市民、NPOによる希少な動植物の保全や竹林の伐採活動などの広がり

##### ○市民が育む自然

・響灘ビオトープが市内小学校の環境体験科の授業で活用されるなど環境学習拠点としての広がり

(平成24年10月のオープンから2年半で、のべ63,597人が来園)

○身近に自然を感じる都市づくり

- ・環境首都100万本植樹プロジェクトによる市内緑化(植樹)が予定より早く進行(平成20年度から34年度までの目標に対し26年度末までで約62万本植樹)

○市民と自然とのふれあいの推進

- ・小倉南区中谷地区で地元住民が中心となって里地里山の利活用の取り組みを実施(里山ウォーキング、漬物コンクールの開催など)

○自然・生物に関する情報の整備

- ・響灘ビオトープにおいて市民参加型の自然環境調査を実施(26年度 ベッコウトンボ調査を3回実施)

(2) 現戦略の課題

- ・響灘ビオトープの役割を戦略に位置づけること
- ・市民への啓発や人材育成を充実させること
- ・農林水産業の生産活動を通じて自然環境の活用と共生を図ること

### 3 次期戦略の策定

(1) 26年度の作業状況

「本市の自然環境の現状」や「自然環境をとりまく動向」について、文献調査や専門家へのヒアリングを実施

○文献調査

- ・環境アセスメント図書や調査報告書など約130文献

○専門家へのヒアリング

- ・自然ネットでの意見交換(計11回)
- ・学識経験者へのヒアリング(計9人)
- ・NPOへのヒアリング(計3団体)

(2) 次期戦略の方向性(案)

現戦略で掲げた基本理念や基本目標は踏襲しつつ、生物多様性国家戦略の新たな視点(自然環境と人間生活との関わりの重要性、生物多様性を維持することで自然共生社会の実現を目指すなど)を取り入れた戦略とする

(3) 今後の進め方(案)

- ・北九州市環境審議会に諮問し、戦略(案)を答申いただく
- ・審議内容を適宜議会に報告し、ご意見をいただく

### 4 次期戦略策定のスケジュール(案)

- 27年 8月 北九州市環境審議会に諮問し、審議開始
- 11月 市民意見募集(パブリックコメント)
- 28年 1月 戦略(案)の答申
- 3月 戦略の策定及び議会報告